



AWAJI の魅力を探検し、 の未来を考えよう!!

AWAJI 未来探検隊

～うずしお探検編その1 報告～

- 概要** 世界遺産登録に向けての取り組みが行われている「渦潮」に焦点をあてながら、淡路島の魅力を探検した。うずしおクルーズ乗船や渦潮の恵みを味わうとして宝楽焼の試食などを行い、渦潮の魅力発信の方法を考えた。
- 日時** (その1) 平成28年9月18日(日) 10:00～9月19日(月・祝) 15:30
(番外編) 平成29年2月19日(日) 13:00～2月19日(日) 16:00
- 場所** (その1) 国立淡路青少年交流の家、うずしおドームなないろ館、うずの丘大鳴門橋記念館、丸山漁業活性化センター
(番外編) 福良地区公民館、福良漁港
- 出席者** (その1) 参加者25名、ボランティア8名(大学生5名、高校生3名) 合計33名
(番外編) 参加者29名、ボランティア7名(社会人2名、大学生4名、高校生1名) 合計36名
- ゲスト** (その1) 兵庫県立人と自然の博物館 上田萌子氏、大平和弘氏
うず潮を世界遺産にする淡路島民の会 山口 平氏
南あわじ市観光ボランティア 堀井裕右氏
元南あわじ市立三原中学校長 濱田寿夫氏
淡路島民宿いづみ丸 本山徳男氏
(番外編) 兵庫県立人と自然の博物館 上田萌子氏、大平和弘氏
福良漁業協同組合 酒林堅次氏

6 プログラム

【全体】・「その1」と題しているため、次回開催も想定しての事業と位置付けている。最終的には参加者が渦潮の魅力を広く発信できるようPR方法の意見出しを行ったが、積極的に多くの意見が出された。

- 人と自然の博物館より上田研究員、大平研究員の2名が二日間とも事業に同行していただき、適宜講話及びアドバイスを頂けたことは良かった。
- 本事業では、前年度に引き続き高校生ボランティアには参加者に準じて活動を行ってもらったと同時に、生活面でも入浴・就寝と活動を共にしてもらった。
- 世界遺産登録の機運をさらに盛り上げられるよう、また事業広報も兼ねて広報活動を行った。当日は新聞社1社のみの取材となったが、広く島内には活動の紹介ができた。
- 今回は6名もの講師からご協力をいただいた。地域で活躍している方々の支援を得ながら事業が行えていることは、今後の事業発展の期待が持てると感じている。
- 2月に「番外編」と題し、リニューアルオープン予定の大鳴門橋記念館に飾るオブジェ制作を行った。



丸山地区での集合写真

その1～1日目～

【アイスブレイク】

- 自己紹介フリップを作成し、一人ずつ自己紹介を行った。「知りたいことは？」の項目を入れたところ、渦潮について興味があることがうかがえる回答が多かった。
- 「ラインナップ」「ネームトス」を行った。ネームトスではグループで行い、終了後にはお互いに名前が言えるまでになった。

【うずしおドームなないろ館】

- ペッパーくんから渦潮解説をしてもらったが、潮の満ち引きの比較画像を見た時には驚きの声が上がっていた。
- うずしおクルーズの時には、渦潮だけでなく、うずのはな、川のように流れる海の様子を観察し鳴門海峡の激しさを体感することができた。
- 山口氏から身近にある渦について講話と実験を行ってもらった。「空気砲」「マグネチックスターラー」の実験は好評で、参加者の好奇心をくすぐる内容であった。
- ワークシートも準備されており、一生懸命に書き込んでいる参加者も多かった。

【世界遺産と渦潮を取り巻く環境について】

- 世界遺産について、人と自然の博物館大平研究員よりスライドを交えて解説していただいた。
- 上田研究員、大平研究員より化石の実物、魚の標本、渦潮に関する図絵などを解説していただいた。また、生きたウミホタルを実際に光らせこのウミホタルも渦潮と関係していることを解説していただいた。解散した後も残る参加者がおり、関心の高さがうかがえた。
- 本日の振り返りとして、「良かった点」「もうひとつだった点」を付箋に書き込んだ。

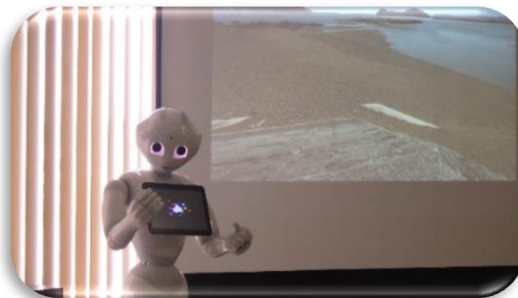
その1～2日目～

【丸山漁業活性化センターでの講話】

- 渦潮語り部の堀井氏から「渦潮の仕組み」「語り部をやっている理由」などを語って頂いた。
- 丸山が地元である濱田氏から、「鳴門鯛の身が締まっていること」「宝楽焼の歴史」等について講話していただいた。



アイスブレイクでの交流



ペッパーの渦潮解説



ひとく研究員より化石標本の解説



渦潮の仕組みについて



渦潮を間近で観察

【宝楽焼試食】

- ・丸山地区で提供される宝楽焼を、地元の民宿いづみ丸より提供いただき試食した。
- ・試食をしての感想を発表では、「とても身が柔らかい」「鯛が泳いでいるみたい」「魚が嫌いだったけど好きになった」など、好意的な意見ばかりであった。
- ・いづみ丸店主からは、感想発表に立ち会っていただき、鯛が泳いでいるように立っている理由や塩を盛っている理由、食べ方などについて更に深く教えて頂いた。

【丸山漁業活性化センターでのワーク】

- ・グループワークに入る前に、大鳴門橋が一望できる立地を生かし、自然の中で一人になる時間を作り二日間の出来事を探検手帳に書き込み振り返りを行った。
- ・2日間で学んだことの中から「一番伝えたいことは?」「誰に伝えたい?」の2つを聞き、一人ずつA4紙に書き、一人一人発表した。
- ・世界遺産に向けての広報物を提示しながら、PRの現状を知らせた。
- ・グループ単位（高校生だけのグループを新しく作った）で、過潮の良さをどのようにPRすればよいかを出し合い、全体で共有した。
- ・今後、その2を開催しPRを実際に行っていくことを伝え閉会した。



宝楽焼の試食



大鳴門橋を眺めながら一人で振り返りを



グループでの話し合い

番外編

【福良漁港にて】

- ・最初にうずしお探検編の前回の取り組みを振り返り、事業の趣旨も確認してスタートした。
- ・酒林氏より生け簀の魚の紹介があり、その魚に実際に触れさせていただいた。
- ・今回描く魚の特徴等を説明していただいた。

【オブジェ制作】

- ・いただいた魚を目の前に置き、自然と出来上がったグループごとに絵を描いた。
- ・絵が完成した者から、大型のちぎり絵の制作にあたった。最終的には全員で取り囲むような形で制作した。
- ・最後に大平氏より、うずしお科学館のリニューアルオープン時（3月19日）に、今回の作品を披露する旨の案内があった。



漁協で魚の説明を受けました



ちぎり絵の制作中

7 成果と課題

○地域の施設を利用し、地域の人に語ってもらう。子どもたちにとっては肌で直接その場の空気感を感じる場の提供ができてだけでなく、しっかりと地域連携を軸とした事業展開が行っており、今後の展望に期待と継続性を持たせたい。

○実験を取り入れた講話は、参加者の興味を引いた。

○宝楽焼の試食は、参加者が思った以上に見た目・味ともにインパクトがあったようで、改めて食材の良さと地元で提供されている宝楽焼の調理方法に感心していた。

○丸山地区での活動は、試食後に一人になる時間を作り振り返りを行ったことは、周りに影響されることなく自分を純粋に振り返る良い時間となった。また、大鳴門橋が一望できる立地であり自然の素晴らしさを肌で感じる機会となった。

○うずしお探検編の一連の流れができており、今後の展望が持てるものとなった。

8 アンケートより

～参加者より～

- ・今まで全く知らなかった渦潮の事がいっぱいわかってすごく楽しかった。次も参加したい。
- ・渦潮ってすごい!ということがわかった。
- ・仲の良い友達ができた。

～ボランティアより～

- ・いろんなところに行けてとても楽しいプログラムだと思った。行く先々で思いを持った人々のお話が聞けて良かった。
- ・体を動かしたり、グループで話したりしている時間が子どもたちには楽しそうだった。

9 所感

名は体を表す!まさに、「AWA」|未来探検隊は淡路島の未来を創造するために、淡路島を探検する事業です。この事業の売りは、地域で活躍をしている「人」と出会うこと。今回は6名もの「人」と出会うことができました。もちろん裏で支えてくださった方々を含めればもっと多くの人に協力をいただいています。皆さん将来を担う子供たちのために積極的関わって頂き、淡路島の未来が楽しみで仕方ありません。今後のうずしお探検編は、来年度の大鳴門橋記念館のリニューアルオープンに関わり、その中で、広く一般に向けて学びの成果として、渦潮の魅力を発信していく予定です。

10 エピソード

渦潮は本当にすごいのか?このテーマに迫るために、渦潮の仕組みを学ぶクルーズを体験し……。しかし、渦潮自体のすごさはもちろんですが、それ以外の切り口を考えた時に、渦潮から恩恵を受けているものに焦点を当てることに。真っ先に浮かんだのは、「鳴門鯛」その鯛を地域で受け継がれている宝楽焼にして食べることに。



ところが、参加者の中に魚が苦手な女の子がおり姿焼きに近い鯛を目の前に「……」けれど、周りの参加者が「おいしい!」「柔らかい!」と言いながら食べているので、一つまみしたところおいしかったようで、最後の



感想では自ら手を挙げて「魚が好きになりました!」と発表してくれました。大鳴門橋が一望できる屋外ロケーションと周りの参加者から影響を受け、自らの殻を破る一歩を踏み出せた彼女の様子を見て、うれしく思いました。これも体験活動ならではの成果だと思います。

主催 国立淡路青少年交流の家

〒656-0543 兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39

TEL 0799-55-2696

体験の風を
おこそう